

Let's enjoy!

第3学年 学年通信
第34号
1月18日 発行
(文責：佐々木栄治)

入試の思い出

教師という仕事をしていると、現在かかわっている児童生徒と同じころの自分自身の様子や気持ちを思い出すことがあります。何かきっかけで思い出すのですが、時代は変わっても学校で学ぶことは共通点が多いように思うし、みんな同じような経験を通して成長していくのだなとも思います。

そこで、私が中学校3年生の頃の様子について紹介します。冬休み明け、友達からこんなことを言われたことを思い出しました。「顔が丸くなったな。」……。部活引退後は、運動していなかったけれど、食欲は旺盛だったからでしょう。今よりはずい分スマートでしたが、当時はショックでした。高校に入学したら部活をやるから元に戻ると自分に言い聞かせて、受験勉強に集中しました。やらなければいけないって分かっているけれど、やる気が出ないこともありました。そんなときは必ず「理科」を勉強しました。やる気が湧かないときでも、好きな教科から無理やりにも勉強を始めると、知らないうちに集中し、あとはいろんな教科も波に乗って勉強ができました。今の時期は、ひたすら問題を解いていた記憶があります。1日が24時間では足りないと感じるくらい時間がほしかったです。布団に入ってから、今日勉強したことを思い出し、思い出せないことがあったら、布団から出て問題集を開き、確認してからもう一度布団に入って思い出し、全部思い出せたら安心して寝るという感じでした。

そして、「面接」……。いろんな質問を想定し、答えを考えますが、まだ人生経験の浅い中3の頃の私にとっては、何を答えようか悩みました。高校入試で実際に聞かれた質問に「尊敬している人は誰ですか?」というものがありました。悩んだ末に用意していた答えが当時のプロ野球選手で、けがを克服して頑張っている「村田兆治さん」でした。現在もそうかと言われると、そう思う部分もあるけれど、そうでない部分が多いかなって感じです。面接で答えたものは、あくまでもその時点でのもので、その答えは成長する中で変わっていくものだし、そうあるべきかなとも思います。面接の答えは絶対ではなく、後々変わってもよいととらえると、答え易くなるかもしれませんね。



中3の栄治くんはどこにいるでしょう?